

# 日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について —非人為的事態の場合—

杉 村 泰

キーワード：中国語教育、日本語母語話者、非人為的事態、自動詞、受身

## 1. はじめに

本研究は日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択意識について論じたものである。日本語の場合、風などの自然作用による対象の変化を表すときは、例（1a）のように自動詞表現を使うのが普通である。

- (1) a. 風でドアがバタンと開いた。（自動詞表現）
- b. \*風でドアをバタンと開けた。（他動詞表現）
- c. \*風でドアがバタンと開けられた。（受身表現）

これに対し、中国語の場合は、例（2b）、例（2c）のように他動詞表現や受身表現を使うのが自然である。

- (2) a. ?有风的原因，门砰的一声开了。（自動詞表現）
- b. 风把门砰的一声吹开了。（他動詞表現）
- c. 门被风砰的一声吹开了。（受身表現）

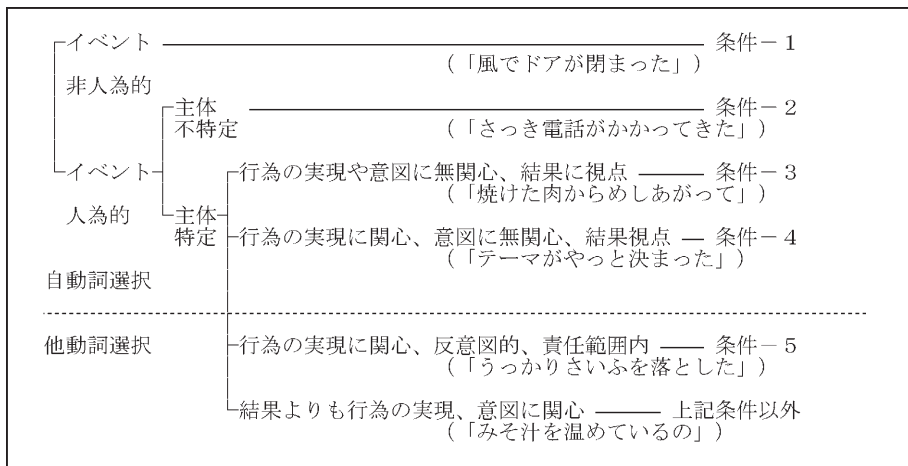
このように日中で自動詞表現・他動詞表現・受身表現の使用にずれの生じる場合がある。この場合、日本語を母語とする中国語学習者（以下「日本人中国語学習者」と呼ぶ）は日本語の影響を受けて中国語を捉え、中国語を母語とする日本語学習者（以下「中国人日本語学習者」と呼ぶ）は中国語の影響を受けて日本語を捉える可能性がある。このうち、本研究では日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択意識について考察する。

分析に際しては、日本語母語話者（以下「日本人」と呼ぶ）の日本語、日本語を母語とする中級中国語学習者の中国語、中国語母語話者（以下「中国人」と呼ぶ）の中国語

についてそれぞれ自・他・受身の選択テストを行い、母語（日本語）と中間言語（中国語）と目標言語（中国語）の違いを比較することによって母語転移の可能性を見る。このうち本稿では事態の成立が自然現象によって起こる「非人為的事態」の場合について考察する。<sup>1)</sup>

## 2. 先行研究

日本語学習者にとって有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択が困難であることは、守屋（1994）、小林（1996）、中村（2002）、曾（2012）など多くの先行研究で指摘されている。このうち、守屋（1994）は日本語の自動詞と他動詞の選択基準には図Aのような条件が関わるとして、条件2～4の場合には人為的なイベントであっても自動詞が選択されると述べている。



図A 守屋（1994）の自他動詞の選択条件

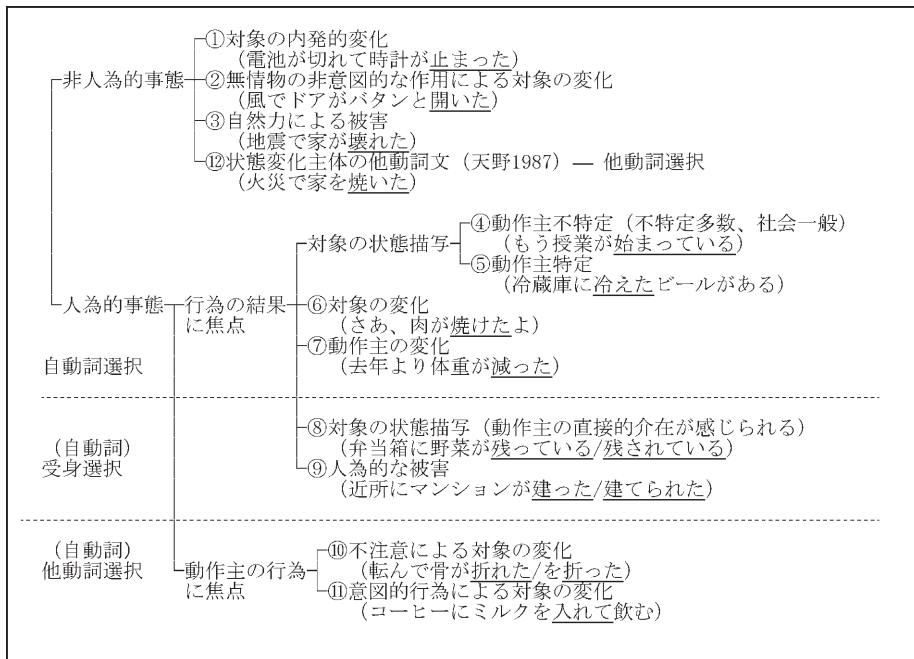
そのうえで、守屋（1994）は中級前半から中頃程度の学習者（中国語系60名、韓国語系49名、英語系21名）を対象に、例（3）、例（4）のようなアンケートを23問実施した。その結果、「動詞の自他の選択の難しさは、程度の差はあれ、自動詞選択のむずかしさにある」（p.163）として、図1の条件のうち「1から4へと次第に習得が難しくなっていく」（p.163）と指摘している。

(3) ドア [を/が] 風でボタンと（閉めた/閉まった）。（守屋1994の例①）

(4) （焼肉店で）「さあ、（焼いた/焼けた）肉から、順番に召し上がって下さい」（守屋1994の例⑩）

日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について守屋（1994）は、日本語の自他選択には①人為的行為か否か、②動作主が特定の可否か、③話し手の関心が行為にあるのか結果にあるのかが関わることを示し、学習者は①②③の順にその処理が難しくなることを指摘している。ただし、②の動作主の特定・不特定に関しては分類基準が恣意的であるため、本研究では動作主が特定の個人または複数の人物の場合は「特定」、不特定多数や社会一般の場合は「不特定」と考えることにする（したがって図Aの「電話がかかってきた」の例は本研究では「主体特定」となる）。

これらの先行研究を受け、<sup>2)</sup> 杉村（2013a,b,c）では、守屋（1994）の事態の分類を図Bのように修正し、調査対象に受身表現を加えて、日本人と上級中国人日本語学習者（中国の湖南大学3年生58名。ほぼN1合格レベル）の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択意識の違いを比較した。



図B 本研究における事態の分類と日本語母語話者の選択傾向

その結果、日本人は自然現象であればたいいの場合に自動詞表現を選択するのにに対し、中国人日本語学習者は「電池が切れて時計が止まった」のように対象の内発的变化を表す場合には自動詞の選択率が高いものの、風力など外力の影響を受ける場合には他動詞表現や受身表現の選択率が上がることを指摘している。

本研究ではこの杉村（2013a,b,c）の研究を受け、日本人中国語学習者の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択意識の違いを明らかにするものである。

### 3. 調査の概要

本研究ではアンケートによる自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択テストを利用して分析を行う。本研究は杉村(2013a,b,c)を受けた日本語ベースの研究であるため、まず日本語のアンケートを作成し、次にそれを中国語に翻訳した。日本語のアンケートは先の図Bに示した12の事態にそって合計60問作成した。各問題は例(5)のように被験者に格助詞「が/を」と「自動詞/他動詞/受身」の組み合わせのうち最も適切だと思うものを一つ選択させるという形式のものである。次にこの日本語のアンケートを中国語に翻訳し、例(6)のような中国語のアンケートを作成した。この場合も、被験者には①～③の中から最も適切だと思うものを一つ選択させた。

- (5) 電池が切れて時計(が/を)(止まった/止めた/止められた)。  
(6) ①電池没電了, 所以表停了。  
②電池没電了, 所以把表停了。  
③電池没電了, 所以表被停了。

このうち、本稿では事態の成立が自然現象によって起こる「非人為的事態」(図Bの事態①②③)を中心に考察する。それに加え「人為的事態」の典型例である「意図的行為による対象の変化」(図Bの⑩)についても比較の対象として取り上げる。以下、本研究の被験者と調査の時期・場所について記しておく。

- ・日本語母語話者(日本語アンケート)  
名古屋大学学部生114名(2012年5月8~10日に名古屋大学にて実施)
- ・日本語を母語とする中級前期の中国語学習者(中国語アンケート)  
名古屋大学で第2外国語として中国語を学ぶ学部生(一通り初級文法を終えた段階)  
(2013年5月14日、2014年4月22日に名古屋大学にて実施)(合計41人)
- ・中国語母語話者(中国語アンケート)  
北京第二外国語大学日語学院学部生32名(2013年4月12日に北京第二外国語大学にて実施)、華東師範大学外国語学院日語系学部生35名(2013年5月27日に華東師範大学にて実施)(合計67人)

以上のアンケート調査をもとに日中各項目の自動詞表現・他動詞表現・受身表現およびねじれ(日本語アンケートで「を+自動詞」または「が+他動詞」となっているもの)の選択率を集計した。このうち、本稿で考察の対象とする19の表現をまとめると表1の

日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について  
 ようになる。本稿では日本語の「が受身」と「を受身」の区別については立ち入って議  
 論しないため、両者を合わせて「受身」とする。同様に、格助詞と自他動詞のねじれに  
 ついても議論の対象としないため合わせて「ねじれ」とする。また、表中の「中国人・  
 中」は中国人の中国語、「日本人・中」は日本人中国語学習者の中国語、「日本人・日」  
 は日本人の日本語を指す。なお、選択率は小数点以下第二位を四捨五入して示してある  
 ため、自動詞表現・他動詞表現・受身表現・ねじれの合計がぴったり100%にならない  
 ものもある。

表1 自動詞・他動詞・受身の選択テストの結果（数字は選択率%）

	被験者	自動詞	他動詞	受身	ねじれ
事態① (内発的変化)	<b>1. 電池が切れて時計（が/を）（止まった/止めた/止められた）。</b> ①電池没电了，所以表停了。 ②電池没电了，所以把表停了。 ③電池没电了，所以表被停了。				
	中国人・中	100.0	0.0	0.0	---
	日本人・中	90.2	7.3	2.4	---
	日本人・日	100.0	0.0	0.0	0.0
	<b>2. 老朽化して家の外壁（が/を）（割れた/割った/割られた）。</b> ①由于破旧，房屋外墙坏了。 ②由于破旧，弄坏了房屋外墙。 ③由于破旧，房屋外墙被弄坏了。				
	中国人・中	01.0	1.5	7.5	---
	日本人・中	73.2	7.3	19.5	---
	日本人・日	95.6	1.8	2.6	0.0
	<b>3. 髪（が/を）（伸びた/伸ばした/伸ばされた）から美容院でカットする。</b> ①因为头发长了，所以在美容院理发。 ②因为把头发留长了，所以在美容院理发。 ③因为头发被留长了，所以在美容院理发。				
	中国人・中	98.5	1.5	0.0	---
	日本人・中	82.9	12.2	4.9	---
	日本人・日	98.2	0.9	0.0	0.9
	<b>4. コンクリートが腐食して橋（が/を）（落ちた/落とした/落とされた）。</b> ①混凝土腐蚀后桥梁倒塌了。 ②混凝土腐蚀后把桥梁弄塌了。 ③混凝土腐蚀后桥梁被弄塌了。				
	中国人・中	88.1	9.0	3.0	---
	日本人・中	58.5	29.3	12.2	---
	日本人・日	100.0	0.0	0.0	0.0

事 態 ② (無常物の作用)	<b>5. ポケットの中のチョコレート(が/を)体温で(溶けた/溶かした/溶かされた)。</b>				
	①口袋里的巧克力因体温溶化了。 ②体温把口袋里的巧克力溶化了。 ③口袋里的巧克力被体温溶化了。				
	中国人・中	44.8	23.9	31.3	---
	日本人・中	70.7	2.4	26.8	---
	日本人・日	93.9	3.5	2.6	0.0
	<b>6. 太陽の光でコップの水(が/を)自然に(温まった/温めた/温められた)。</b>				
	①由于阳光,杯中的水自然变热了。 ②阳光把杯中的水自然变热了。 ③杯中的水被阳光自然变热了。				
	中国人・中	62.7	29.9	7.5	---
	日本人・中	61.0	14.6	24.4	---
	日本人・日	72.8	0.9	26.3	0.0
	<b>7. 風が強くて蠟燭の火(が/を)(消えた/消した/消された)。</b>				
	①因为风很大,烛火灭了。 ②因为风很大,把烛火熄灭了。 ③因为风很大,烛火被熄灭了。				
	中国人・中	64.2	9.0	26.9	---
	日本人・中	75.6	14.6	9.8	---
	日本人・日	97.4	0.9	0.9	0.9
	<b>8. 突風が吹いて人(が/を)屋根から(落ちた/落とした/落とされた)。</b>				
	①突然刮起的暴风刮得人从屋顶上掉了下来。 ②突然刮起的暴风把人从屋顶上掉了下来。 ③人被突然刮起的暴风刮得从屋顶上掉了下来。				
	中国人・中	50.7	20.9	28.4	---
	日本人・中	56.1	36.6	7.3	---
	日本人・日	83.3	9.6	7.0	0.0
	<b>9. 風でドア(が/を)バタンと(開いた/開けた/開けられた)。</b>				
	①有风的缘故,门砰的一声开了。 ②风把门砰的一声吹开了。 ③门被风砰的一声吹开了。				
	中国人・中	17.9	43.3	38.8	---
	日本人・中	43.9	41.5	14.6	---
	日本人・日	91.2	0.0	8.8	0.0
	<b>10. 台風でリンゴの実(が/を)全部(落ちた/落とした/落とされた)。</b>				
	①台风的缘故,苹果全落了。 ②台风把苹果全刮落了。 ③苹果被台风刮落了。				
	中国人・中	20.9	55.2	23.9	---
日本人・中	68.3	17.1	14.6	---	
日本人・日	94.7	0.0	5.3	0.0	

事態③ (自然力による被害)	<b>11. 強風で窓ガラス (が/を) (割れた/割った/割られた)。</b>					
	①因強風, 窗户玻璃碎了。					
	②強風把窗户玻璃打碎了。					
	③窗户玻璃被強風打碎了。					
	中国人・中	28.4	58.2	13.4	---	
	日本人・中	63.4	14.6	22.0	---	
	日本人・日	93.0	0.9	6.1	0.0	
	<b>12. 火災で家 (が/を) (焼けた/焼いた/焼かれた)。</b>					
	①火災的缘故, 房子烧毁了。					
②火災把房子烧毁了。						
③房子被火災给烧毁了。						
中国人・中	35.8	40.3	23.9	---		
日本人・中	46.3	26.8	26.8	---		
日本人・日	90.4	0.0	6.1	3.5		
事態③ (自然力による被害)	<b>13. 奈良の大仏 (が/を) 火災で何度も (焼けて/焼いて/焼かれて) いる。</b>					
	①因火災奈良的大佛像烧了好多次。					
	②火災把奈良的大佛像烧了好多次。					
	③奈良的大佛像被火災烧了好多次。					
	中国人・中	32.8	6.0	61.2	---	
	日本人・中	46.3	14.6	39.0	---	
	日本人・日	66.7	2.6	29.8	0.9	
	<b>14. 家に帰ったら、窓ガラス (が/を) (割れて/割って/割られて) いた。</b>					
	①回到家一看, 窗户玻璃碎了。					
②回到家一看, 把窗户玻璃打碎了。						
③回到家一看, 窗户玻璃被打碎了。						
中国人・中	71.6	0.0	28.4	---		
日本人・中	48.8	12.2	39.0	---		
日本人・日	47.4	0.0	52.6	0.0		
事態③ (自然力による被害)	<b>15. 地震で家 (が/を) (壊れた/壊した/壊された)。</b>					
	①因为地震房子倒塌了。					
	②地震把房子弄塌了。					
	③房子被地震弄塌了。					
	中国人・中	65.7	17.9	16.4	---	
	日本人・中	53.7	22.0	24.4	---	
	日本人・日	91.2	0.0	8.8	0.0	
	事態① (意図的行為)	<b>16. 電子レンジで冷えたスープ (が/を) (温まった/温めた/温められた)。</b>				
		①通过微波炉, 凉汤变热了。				
②用微波炉热了凉汤。						
③凉汤用微波炉给热好了。						
中国人・中		0.0	80.6	19.4	---	
日本人・中	48.8	41.5	9.8	---		
日本人・日	5.3	90.4	4.4	0.0		

17. ドア（が／を）ボタンと（開いて／開けて／開けられて）部屋の中に入った。 ①门砰的一声开了后，进了房间。 ②把门砰的一声打开后，进了房间。 ③门砰的一声被打开后，进了房间。				
中国人・中	23.9	65.7	10.4	---
日本人・中	65.9	19.5	14.6	---
日本人・日	10.5	81.6	0.0	7.9
18. コーヒーにミルク（が／を）（入って／入れて／入れられて）飲む。 ①咖啡里放有牛奶喝。 ②咖啡里放牛奶喝。 ③咖啡里被放牛奶喝。				
中国人・中	22.4	77.6	0.0	---
日本人・中	41.5	51.2	7.3	---
日本人・日	2.6	95.6	1.8	0.0
19. 目が悪くなったので、眼鏡（が／を）（変わった／変えた／変えられた）。 ①因为视力变差了，所以眼镜换了。 ②因为视力变差了，所以换眼镜了。 ③因为视力变差了，所以眼镜被换了。				
中国人・中	11.9	85.1	3.0	---
日本人・中	53.7	22.0	24.4	---
日本人・日	19.3	15.8	64.9	0.0

#### 4. 事態別に見る自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択傾向

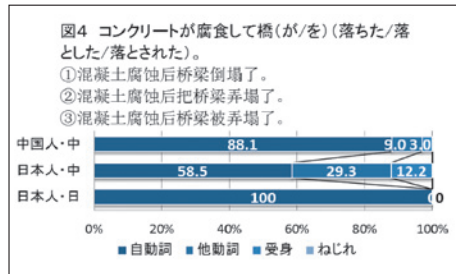
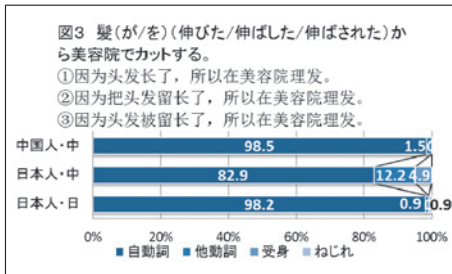
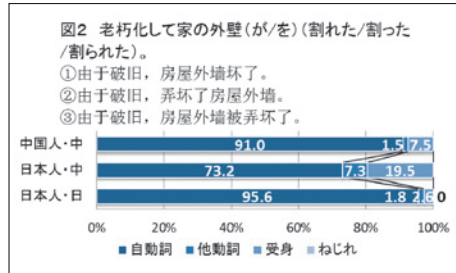
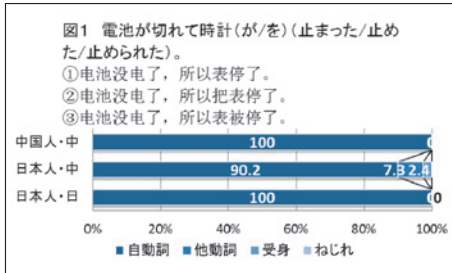
##### 4.1 対象の内発的变化を表す場合（事態①）

本節では対象の内発的变化を表す場合（事態①）の自動詞・他動詞・受身の選択傾向について論じる。内発的变化とは「電池が切れて時計が止まる」のように外力によらず時間的経過による対象の自発的变化を表すもののことである。この場合、図1～図4のように、日本語でも中国語（以下、単に中国語と言えば中国人の中国語を指す）でも自動詞表現の選択率が約90%以上と高いことが分かる。一方、日本人中国語学習者の中国語では、図1～図3においては自動詞表現の選択率が70%以上と高いが、図4ではそれが58.5%しかない。これは日本人中国語学習者にとって「電池切れによる時計の停止」、「成長による髪の毛の伸び」、「老朽化による外壁の割れ」は対象の内発的变化として捉えやすいのに対し、「コンクリートの腐食による橋の落下」は「コンクリートの腐食」を外力としても認識しやすいためであると考えられる。

興味深いことに、中国人日本語学習者や台湾人日本語学習者の調査でも、図1～図3の日本語は自動詞表現の選択率が極めて高く、図4の日本語は自動詞表現の選択率が相対的に抑制されるという結果が出ている（詳細は別稿に譲る）。この点で図4のような表



日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について現は次の事態②と連続していると思われる。このことから、図4のような表現は日本人中国語学習者にとって図1～図3のような表現よりも習得しにくいことが分かる。

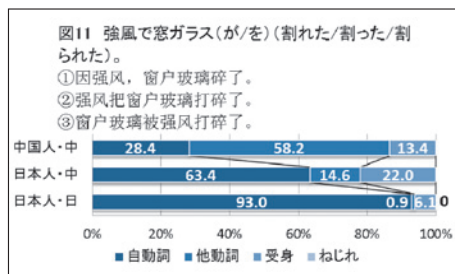
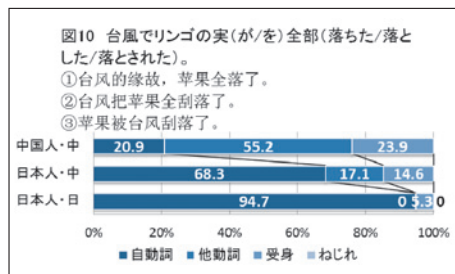
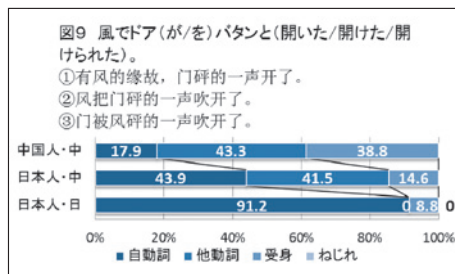
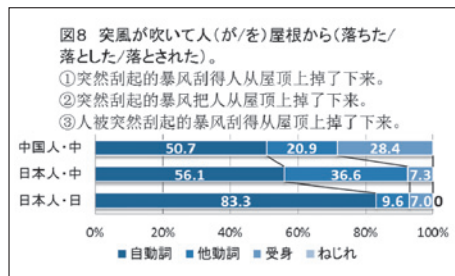
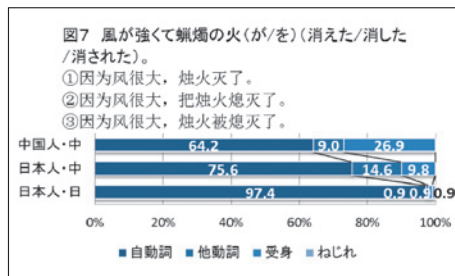
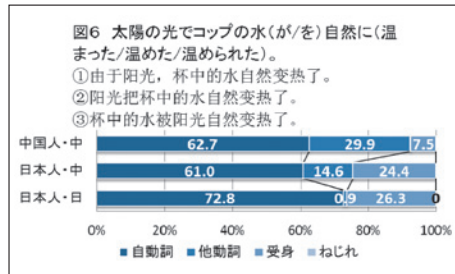
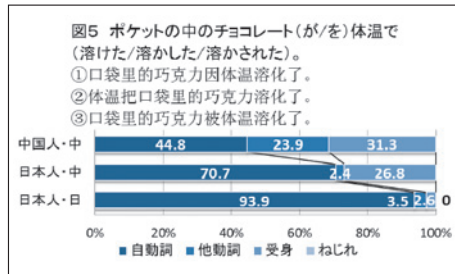


#### 4.2 無情物の非意図的な作用を表す場合（事態②）

本節では無情物の非意図的な作用を表す場合（事態②）について論じる。無情物の非意図的な作用とは「風でドアが開く」のように風や光や熱などの外的な自然作用による対象の変化を表すもののことである。この場合、図5～図11のように、全体的に日本語では自動詞表現の選択率が70%以上と高いのに対し、中国語では日本語よりも自動詞表現の選択率が低く、他動詞表現や受身表現の選択率が高くなっている。一方、日本人中国語学習者の中国語は、全体的に日本語と中国語の中間的な値で自動詞表現が選択されている。このことから、日本語では内発的な事態であろうと外的な事態であろうと自然現象であれば自動詞表現が選択されやすいのに対し、中国語では内発的な事態の場合には自動詞表現が選択されるが、外的な要因によって事態が引き起こされる場合には自動詞表現だけでなく他動詞表現や受身表現も選択されることが分かる。また、日本人中国語学習者は母語である日本語の影響を受けながらも、ある程度目標言語である中国語の語感を働かせているため、両者の中間的な選択率になっていると考えられる。

ところで、図7～図11はいずれも風力による対象の変化を表すものである。これらの中国語を見ると、図7と図8では自動詞表現の選択率が50%を超えているのに対し、図9～図11では30%以下となっている。この違いは、前者の対象である「蠟燭の火」、「人」は「ふとしたことで消えやすい」、「うっかりすると屋根から落ちやすい」という内

在的性質を持っているのに対し、後者の対象である「ドア」、「リンゴの実」、「窓ガラス」は外的要因無しに開いたり、全部落ちたり、割れたりすることは少ないことによると考えられる。すなわち、自発性の高い事態の場合は相対的に自動詞の選択率が上がり、自発性の低い事態の場合は相対的に自動詞の選択率が下がるのである。しかし、日本人中国語学習者はそこまでの差を認識してはならず、中国語で自動詞表現の選択率が30%以下の場合でも、日本語の影響を受けてその選択率が倍以上になっている。



日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について

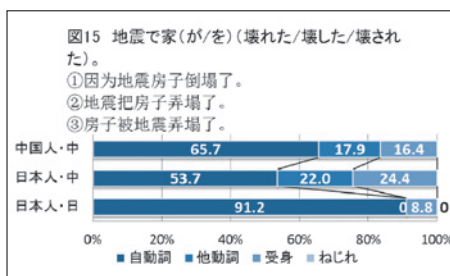
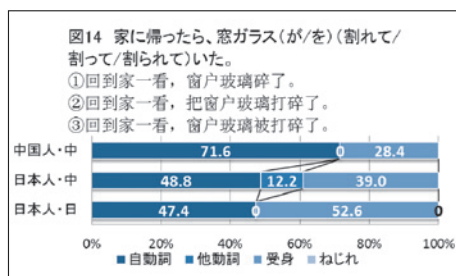
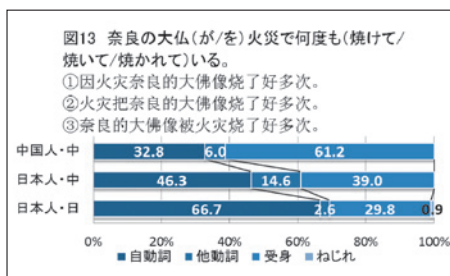
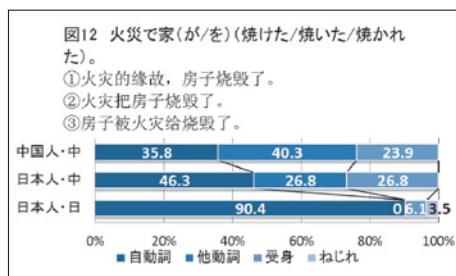
#### 4.3 自然力による被害を表す場合（事態③）

本節では自然力による被害を表す場合（事態③）について論じる。これは事態②に被害の意味が伴ったものである。まず、対象の焼失を表す図 12 と図 13 を比較する。図 12 の場合、日本語では自動詞表現の選択率が 90.4% と高いのに対し、中国語では自動詞表現の選択率が 35.8% と低く、日本語に比べて他動詞表現や受身表現の選択率が高い。一方、日本人中国語学習者の中国語は先の事態②の時と同様に日本語と中国語の中間的な値を示している。次に図 13 は火災による対象の焼失が繰り返して生じているため、図 12 より被害の意味が強く表れている。この場合、日本語でも受身表現の選択率が 29.8% にまで上がっており、中国語の受身表現の選択率も 61.2% にまで上がっている。このことから、日本語でも被害の意味が強くなると受身表現の選択率が高まり、中国語でもさらにその割合が高くなること分かる。このときも、日本人中国語学習者の中国語はやはり日本語と中国語の中間的な値を示している。

次に図 14 を見ると、日本語では自動詞表現と受身表現の選択率がほぼ半々になっているのに対し、中国語では自動詞表現の選択率が約 70%、受身表現の選択率が約 30% となっていて、これまでとは逆に中国語の方が自動詞表現の選択率が高くなっている。この理由に関しては今後検討が必要であるが、事態②や事態③の火災の場合は、対象の変化を引き起こす風・光・熱・火などの外的要因が文面に出ているのに対し、図 14 の場合は窓ガラスを割った外的要因が不明であるため、それを動作主とする受身表現の使用が抑制されたのではないかと考えられる。この点、日本語では動作主不明の情景描写の場合にも受身表現が使いやすい上に、図 14 は被害の意味を感じやすい場面であるため、受身表現の選択率が高くなっていると考えられる。この場合、日本人中国語学習者の中国語はやはり日本語と中国語の中間的な値を示している。

次に図 15 を見ると、日本語では自動詞表現の選択率が 91.2% と高いのに対し、中国語では自動詞表現の選択率が 65.7% と低く、日本語に比べて他動詞表現や受身表現の選択率が高い。一方、日本人中国語学習者の中国語は、ここまでに見てきた諸例と違って、日本語と中国語の中間的な値を示していない。この理由はよく分からないが、地震という外的要因による被害を表す文であれば、もっと中国語の受身表現の選択率が増えてもよさそうである。ただし、ここではこれ以上立ち入らないことにする。

ところで、図 12～図 15 の日本人中国語学習者の中国語を見ると、いずれも自動詞表現の選択率は 50% 前後、他動詞表現の選択率は 20% 前後、受身表現の選択率は 30% 前後と似ていることに気付く。このことから同じ被害の場面でも、日中両母語話者はそれぞれの場面によって 3 つの表現の選択率を変えているのに対し、日本人中国語学習者はそのような調整が効きにくく、似たような選択率をしてしまうことが分かる。

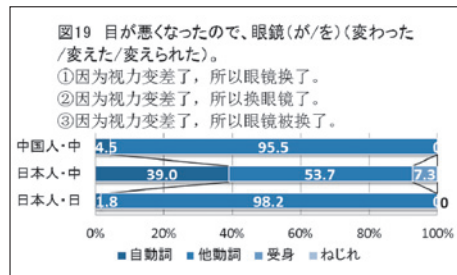
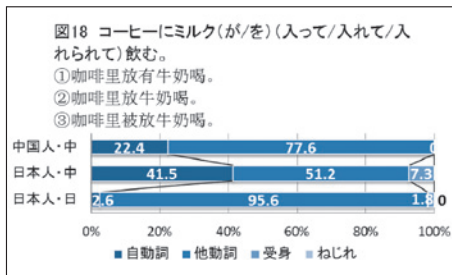
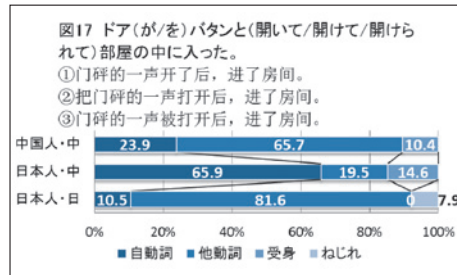
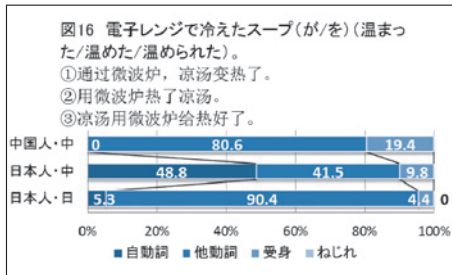


#### 4.4 動作主の意図的な行為を表す場合（事態①）

本節では動作主の意図的な行為を表す場合（事態①）について論じる。動作主の意図的な行為とは「スープを温める」のように動作主が何らかの目的のために当該の行為を行うことを表すものである。この場合、図16～図19のように、日本語でも中国語でも他動詞表現の選択率が高くなる。この点で上の事態①～③とは異なる。

この場合に特徴的なのは、日本語でも中国語でも他動詞表現の選択率が高いのに、日本人中国語学習者の他動詞表現の選択率は低く、自動詞表現の選択率が高くなっている点である。杉村（2013a,b,c）で論じたように、日本語では人為的事態でも動作主の目的意識が出ないと他動詞表現が選択されにくく、自動詞表現が選択されやすいという特徴がある。これが外国語となると、他動詞を選択しようとする判断がさらに弱まり、3つの中から一つ選べと言われたら、日本語において一番ノーマルな自動詞表現を選びやすかったものと考えられる。

これに対し、杉村（2013a,b,c）で分析の対象とした中国人日本語学習者は、人為的事態はもとより非人為的事態でも日本人に比べて他動詞表現または受身表現を選択しやすい傾向がある。この点で自動詞表現を選択しやすい日本人とは対照的な性質を示している。そのため、中国人日本語学習者は事態①において日本人並みに他動詞の選択率が高く、日本人中国語学習者のような特徴的な反応は示していない。



## 5. まとめ

以上、本研究では日本人の日本語、中国人の中国語、日本人中国語学習者の中国語における自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択意識の違いについて論じた。その結果、日本人中国語学習者は母語である日本語の影響を受けて中国語の自・他・受身の選択を判断している可能性のあることが明らかとなった。以下、事態①②③①の概要を整理しておく。

### ・対象の内発的变化を表す場合（事態①）

日本語でも中国語でも自動詞表現の選択率が約90%以上と高く、日本人中国語学習者の中国語も自動詞表現の選択率が70%以上と高い。

### ・無情物の非意図的な作用を表す場合（事態②）

日本語では自動詞表現の選択率が70%以上と高いのに対し、中国語では日本語よりも自動詞表現の選択率が低く、他動詞表現や受身表現の選択率が高い。一方、日本人中国語学習者の中国語は、全体的に日本語と中国語の中間的な値で自動詞表現が選択されている。

### ・自然力による被害を表す場合（事態③）

日本語では自動詞表現の選択率が高く、中国語では自動詞表現の選択率が日本語よりも低くなり、相対的に他動詞表現または受身表現の選択率が高くなる。一方、日本人中国語学習者の中国語は、全体的に自動詞表現の選択率は50%前後、他動詞表

現の選択率は20%前後、受身表現の選択率は30%前後となる。

・動作主の意図的な行為を表す場合（事態①）

日本語でも中国語でも他動詞表現の選択率が高いのに対し、日本人中国語学習者の他動詞表現の選択率は低く、相対的に自動詞表現の選択率が高くなっている。

このように日本語では内発的な事態であろうと、外的な事態であろうと、被害の意味が入る場合であろうと、自然現象であれば自動詞表現が選択されやすいのに対し、中国語では内発的な事態の場合には自動詞表現が選択されるが、外的な要因によって事態が引き起こされる場合や被害の意味が入る場合には、日本語に比べて他動詞表現や受身表現の選択率が高いこと、一方、日本人中国語学習者は両者の中間的な値を示すが明らかとなった。以上のことから、日本人中国語学習者は母語である日本語の影響を受けながらも中国語の感覚もある程度身に付けていることが推察される。今後は上級中国語学習者のデータも見ることにより、習得のしやすい項目とそうでない項目の違いを明らかにしていきたい。

付記：本稿は平成25-27年度日本学術振興会科学研究費基金（挑戦的萌芽研究）（課題番号25580111）による研究成果の一部である。

## 注

- 1) 「人為的事態」については次号『言語文化論集』36-2で論じる。
- 2) 小林（1996）、中村（2002）、曾（2012）については杉村（2013b）で論じたので、ここでは省略することにする。守屋（1994）についても杉村（2013b）で論じたが、本研究の事態の分類のもとになるものであるため、再度取り上げることにした。

## 参考文献

- 天野みどり（1987）「状態変化主体の他動詞文」『国語学』第151集，国語学会，pp.110-97（左1-14）
- 小林典子（1996）「相対自動詞による結果・状態の表現—日本語学習者の習得状況」『文藝言語研究・言語篇』第29巻，筑波大学文芸・言語学系，pp.41-56
- 杉村 泰（2013a）「対照研究から見た日本語教育文法—自動詞・他動詞・受身の選択—」『日本語学』2013年6月号・第32巻第7号（通巻410号），明治書院，pp.40-48
- 杉村 泰（2013b）「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について

日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について

一人為的事態の場合一」『日本語／日本語教育研究』[4] 2013, 日本語／日本語教育研究会・ココ出版, pp.21-38

杉村 泰 (2013c) 「中国語話者の日本語使用に見られる有対動詞の自・他・受身の選択 —被害や迷惑の意味を表す場合—」『漢日語言対比研究論叢』第4輯, 漢日対比語言学研究(協作)会編・北京大学出版社, pp.275-286

曾ワンティン (2012) 『中国語母語話者における有対他動詞の受身表現と自動詞の使い分けについて』名古屋大学修士学位論文

中村祐理子 (2002) 「中級学習者の受身使用における誤用例の考察」『北海道大学留学生センター紀要』第6号, 北海道大学留学生センター, pp.21-36

守屋三千代 (1994) 「日本語の自動詞・他動詞の選択条件—習得状況の分析を参考に」『講座日本語教育』第29分冊, 早稲田大学日本語研究教育センター, pp.151-165